



トンボやチョウは、どうして羽をしまわないの

どんな虫が羽をしまっているか

羽をしまっているものには、どんなものがあるでしょうか。

カブトムシやテントウムシ、ゲンゴロウなどは、外側のかたい羽の下に、折りたたんだ、うすい羽をしまっています。カブトムシやテントウムシは、トンボやチョウのように、いつも飛び続けているわけではありません。樹液を吸う木まで飛んだり、卵を産むため、オスやメスを探るときに飛びます。

バッタやカマキリなどは、卵からかえった幼虫が、親と同じような体をしています。しかし、幼虫のころには羽がほとんどなく、だっ皮をくり返して、体が大きくなるにつれて、羽ができてきます。この羽は、ふつうは、折りたたんでしまわれています。

カマキリは、オスがメスを探るときに飛ぶときくらいしか、この羽を使いません。カマキリのメスは、おなかが大きく重いので、羽はあるけど飛べません。

トンボやチョウは、飛ぶのがふつう

いつも、必ず使う羽ではなく、しかも、うすくて破れやすそうな羽をもっている虫は、羽をしまっているようです。

トンボやチョウは、飛ばなければ、えさを手に入れることができません。何をするにも、まず、羽を使って飛び立ちます。

きっと、いつも羽を使っているトンボやチョウは、羽をしまう必要がないのでしょう。

(監修・中山 周平)

